



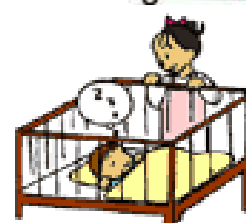
保育のサステイナブルな発展を目指し、地域社会・子ども達・職員の
ステークホルダーを捉え、長時間の時間軸で保育を考え実現化していきます。

「子ども達の上から幸せの種をまく保育」を、自己肯定型保育(生まれてきてよかった、やればできる...)や自己有用型保育(認められて、世の中の人に役だつ人...)を取り入れて行います。

現場・日常活動(実践): 保育士の心得、園児の接し方、身だしなみ、公平性の規範を守って
保育目標

「丈夫な身体と豊かな心を育てる」

- 1.個性豊かな子ども
- 2.情結豊かな子ども
- 3.思いやりのある子ども
- 4.何事にも挑戦できる子ども
- 5.主体性・自主性のある子ども
- 6.自分の意思をはっきり伝えられる子ども
- 7.あいさつができる子ども



保育方針(自己肯定型保育)

保育の基本方針は「保育所保育指針」に依拠した上で職員は、子どもや家庭に対してわけへだてなく保育を行うこと、そして、人権を尊重しプライバシーを保護することを基本原則として保育に臨みます。さらに、児重の最善の利益を願うため職員は、子どもの心を大切に、常に子どもの視点に立って接していくなかで、子どものもてる可能性を、子ども自身の力で開花させていく保育の実践に全力を注ぎます。そのため、職員は次に掲げる7つの視点を持ち、よりよい保育のために日々努力研鑽を行っていきます。①子どもをひとりの人間、人格者として認める②子どもの立場・視点に立って物事を考え共感できる③子どもの自尊心を傷つけたり、見下したりしなく共に成長しようとする前向きな姿勢④大人のものさしで善悪の判断をしない⑤明るく優しいおおらかな心⑥子どもの心をよく理解し、子どもの言葉に耳を傾ける

管理 顧客満足度

アカウンティビティ(各責任者の役割)の開示

現場第一主義(草の根保育)

地域密着型

費用対効果型

コミュニケーション(全体ベクトルの一致、活力の醸成、それぞれの'思い'や'考え'の伝達)
に配慮したPDCAサイクルを展開する。



中期経営計画

年度事業計画

子ども子育て支援新制度にのっとった保育園を目指す

女性の社会進出を手助けする育休制度の充実

行動計画策定

地域と連携した保育を目指し、双子園の連携を地域に展開する。

大きな行事は法人としてまとまった形で地域・保護者へ奉仕する。

社会貢献活動として多世代間交流を目指す。

財務計画策定 事業活動支出の人件費の占める割合80%をキープする。(経営形態別費用構造)

スタッフ処遇を最善に行えるよう財務計画を目指す。最大の投資は賃金・賞与処遇である。



経営戦略

「安全保育」こそ経営の基盤であり、守り続ける。

「保護者の声」に徹底してこだわり続ける

地域の信頼を基に「地域社会」と共に歩み続ける。

常に「挑戦」し続ける。

「関心」を持って議論し、「自信」を持って決定し、「確信」を持って実行する。

人を活かし、チームを「力」にし、強い 業界唯一の法人を目指す。

当事者意識と危機管理意識のもと法人倫理、安全意識、法令順守をもって行動する。

子どもへの保育成果は、職員へ最善の利益をもたらす経営処遇戦略とする。



経営理念・ミッション

私の保育園は、社会福祉事業法第3条 および第5条にある「基本理念」「地域等への配慮」「事業経営の準則」に基づき「子どもの健やかな成長を援助する」ことを基本理念とし下記ミッションを達成します。

- ①「安全保育」と「信頼」
- ②「価値ある保育時間とサービス」を創造
- ③「いつも地域に密着した身近な存在」
- ④「夢」と「感動」を届けます

